

令和4年6月20日

甲府市議会議長 廣瀬 集 一 様

民生文教委員長 鮫田 光 一

所 管 事 務 調 査 報 告 書

民生文教委員会におきましては、甲府市議会基本条例第18条第4項に基づく所管事務調査及び政策研究のテーマを「GIGAスクール構想について」とし、調査・研究を進めてまいりました。

以下、これまでの経過と調査・研究の大要についてご報告いたします。

まず、令和3年9月10日の委員会におきまして、民生文教という幅広い分野からテーマを決定するに当たり、委員間で意見交換をする中、多岐にわたる意見があり、集約に至らなかったことから、次回の委員会で絞り込むこととし、その後、同年11月4日に委員会を開き、調査・研究テーマを「GIGAスクール構想について」と決め、まずは本市の現状を把握するため、ICT活用推進研究校である甲府市立城南中学校の現地調査を行うこととしました。

同年11月16日に城南中学校での1人1台端末を活用した授業の様子を見学した後、当局から学校現場における現状と取組について、並びに甲府市GIGAスクール推進ビジョンの概要について説明を受け、質疑を行い、理解を深めました。

令和4年1月には群馬県富岡市・群馬県高崎市・埼玉県鴻巣市・茨城県つくば市への視察を計画しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大状況に鑑み、やむなく中止といたしました。

しかしながら、GIGAスクール構想の調査・研究を進めるに当たっては、教育ICT活用の先駆的自治体への視察は必要不可欠であるとの考えのもと、同年4月25日の委員会におきまして、GIGAスクール構想に係る本市の現状と課題について委員間討議を行うとともに、茨城県つくば市のオンライン視察を決定しました。

同年5月20日に、オンラインによりつくば市総合教育研究所の担当者から説明を受け、質疑を行った後、その他の先進事例についても委員間で情報共有し、その後の委員間討議を経て、当委員会として次のとおり取りまとめたものであります。

GIGAスクール構想については、1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実

に育成できる教育環境を実現することを目的に、文部科学省の主導により推進されております。本市におきましても、ネットワークの整備や教職員への研修等の準備を終え、令和3年9月に甲府市GIGAスクール推進ビジョンを策定し、同年10月から1人1台端末の本格運用を開始したところです。

本市の取り組むべき課題といたしまして、まず、教職員への支援につきましては、令和3年度まで行われていたGIGAスクールサポーターの配置が終了し、また、文部科学省により配置が推奨されているICT支援員についても配置されていない状況です。

今般視察したつくば市においては、ICT指導員を3名、ICT支援員を7名配置し、各学校からのICTに関する問い合わせや研修の依頼に対応しております。学校現場におけるICT技術の更なる活用には、教員の負担を軽減するためのサポート体制が不可欠であるとのことでした。

ICT支援員は、財源や人材確保の難しさから、令和2年度末時点で全国約57%の自治体で未配置となっておりますが、配置に係る経費は地方財政措置の対象とされており、また、教員の負担軽減という観点からも必要性の高い施策であることから、本市においてもICT支援員の活用を積極的に検討するとともに、学校間での教育コンテンツの共有や運用の手引きの作成など、更なる教員の負担軽減に取り組んでいく必要があるものと考えます。

次に、子どもの快適な学習環境の確保につきましては、城南中学校の授業見学の際、1人1台端末を置くことにより教材が机の上に乗れず、床に置く例も見受けられたことから、衛生面の安全性にも配慮する中でより広い学習用机への計画的な入替え等を検討するとともに、使用する教材数の精査などを行っていただきたいと思っております。

最後に、子どもの視力低下への対応につきましては、つくば市立上郷小学校では、養護教諭と協力し、目のストレッチをする動画の作成・配信を行うなど、特徴的な取組を行っておりましたので、本市の参考となるものと考えます。

以上が、当委員会の調査・研究の大要であります。

結びに、Society 5.0時代を生きる子どもたちにとって、GIGAスクール構想を通じ、環境や格差に左右されずに自ら学び続ける力を身に着けることが肝要であり、当委員会といたしましても、その効果を注視していく必要があると考えております。

当局におかれましては、本調査・研究を参考としていただきながら、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、本市のGIGAスクール構想に係る取組を今後一層推進されるよう期待し、報告といたします。